

ホームセンター業における地球温暖化対策の取組 ～低炭素社会実行計画 2016年度実績報告～

平成30年1月

一般社団法人日本ドウ・イット・ユアセルフ協会

目 次

- 0. 昨年度審議会での評価・指摘事項
- 1. ホームセンター業の概要
- 2. ホームセンター業界の「低炭素社会実行計画」
概要
- 3. 2016年度の実績
- 4. 低炭素製品・サービス等による他部門での貢献
- 5. 海外での削減貢献
- 6. 革新的な技術開発・導入
- 7. その他の取組
- 8. 参考資料

0. 昨年度審議会での評価・指摘事項

- 昨年度フォローアップWGにおける進捗評価
 - 主なコメント・指摘事項・課題
 - ①カバー率の向上
 - ②消費者意識の向上や消費者参加型への取組・P R
 - ③目標数値の引き上げ（深掘り）
 - ④削減率の定量化
 - ⑤海外との比較（定量化）
- 指摘を踏まえた今年度の改善・追加等
 - ①カバー率の向上について、改善に向けた取組を図ったところ、計画参加企業の増加につながった
 - ②外部機関（地方自治体）の実施事業への参加協力を通じて、消費者に向けた取組・P Rを行い、家庭部門のCO2削減を推進した
 - ③計画参加（調査回答）企業によっては、業務部門における取組が既に実施済みとなっている場合が見られ、対策が行き渡っている企業も見られること等から、目標見直しの検討（引き上げ）については、現在、特に予定していない。但し、業界内の機運の高まりや企業からの要望が生じた場合等は、目標見直しに向けた検討を進めていくことを想定している
 - ④低炭素製品・サービス等による他部門（販売提供部門）及び運輸部門において、計画参加企業各社の自主的かつ積極的な取組（ご協力）のもと、出来る限りの記載（削減率の定量化）を行っている
 - ⑤当業界は参加企業数の変動が大きいことや業界内のカバー率が低いこと等から、正確な業界実態の把握ができておらず、国際的な比較（海外との比較）は困難であるため、実施していない。

1. ホームセンター業の概要

- 住関連商品やサービスを中心に販売しているサービス業（小売業）。1972年に、日本ではじめて住関連の商材を品揃えした本格的なホームセンターが誕生し、現在では、約4兆円の業界規模となる。取扱商品としては、D I Y 素材・用品、電気用品、インテリア用品、家庭日用品、園芸・エクステリア用品、ペット用品、カー・アウトドア用品、カルチャー用品等の住関連商材を中心に品揃えする流通小売業。なお、近年では、防災関連や環境配慮型の各種商品の販売を担うことにより、ホームセンターの社会的な役割が高まっている。
- 業界の規模
 - － 企業数：157社（中小企業が大多数）
 - － 市場規模：約3兆8,000億円
- 業界の現状
 - － リーマンショック後の販売額は足踏みが続いたものの、直近年は持ち直し傾向にある
 - － 業界内の企業数は減少傾向が見られる一方で、店舗数や売場面積は増加傾向にある
 - － 業界に対する要望として、環境対策のみならず、製品安全、防犯防災等の様々な社会経済分野への拡大傾向が見られる 等

2. ホームセンター業界の「低炭素社会実行計画」概要

- 目標指標：エネルギー消費原単位
 - － 2020年 2014年6月策定
エネルギー消費原単位を2004年度比で15%削減とする。
 - － 2030年 2015年5月策定
エネルギー消費原単位を2004年度比で25%削減とする。
- 目標策定の背景
目標見直しのための前提条件として、カバー率の向上（課題）があることから、カバー率が向上し、業界内の取組実態により近い形で反映される必要がある。このため、業界内の取組実態により近い形で反映された上で、目標見直しを図っていくことが重要であることを鑑み、将来的には必要に応じて見直していくことを想定しているものの、当面は目標見直しを行う予定は考えていない。
- 前提条件
流通小売業（ホームセンター業）として、業務部門（店舗等）を対象とする。
- 目標水準設定の理由とその妥当性 等
過去のトレンド等に関する定量評価や政策目標への準拠（省エネ法1%の水準）により、目標水準を設定している。当業界は、これまで2008年度から2012年度（目標期間5年間）までの自主行動計画において、5年間平均で26.8%の削減を達成しており、今回の15%削減（注：目標年度2020年度と基準年度2004年度比で15%の削減）は、取組主体たる各企業の負担を勘案しても十分実現可能であると判断して設定した。また、他業界の10年で10%（毎年1%の削減）等の削減目標に比べても遜色ないものとする。

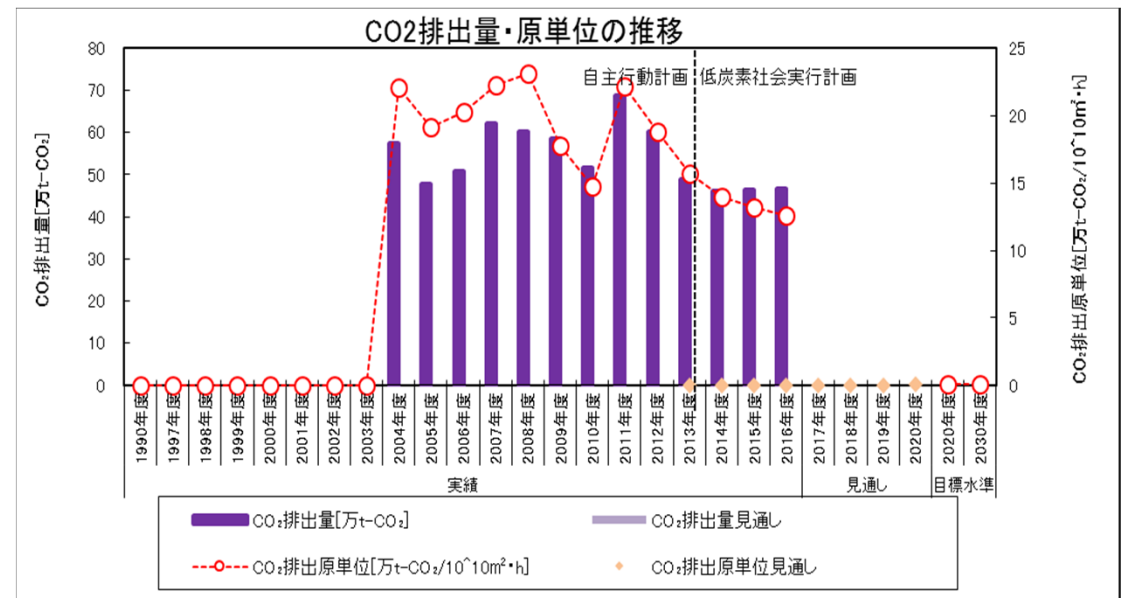
3. 2016年度の取組実績（1）

- 2016年度の実績値
 - 生産活動量（単位： $\times 10^{10} \text{m}^2 \cdot \text{h}$ ）：3.684（基準年度比43.0%、2015年度比6.5%）
 - エネルギー消費原単位（単位： $\text{kWh}/\text{m}^2 \cdot \text{h}$ ）：0.0240（基準年度比▲52.8%、2015年度比▲2.0%）
 - CO_2 排出量（単位：万 t-CO_2 ）：46.64（基準年度比▲19.1%、2015年度比0.7%）
 - CO_2 原単位（単位： $10^8 \text{kg-CO}_2/10^{10} \text{m}^2 \cdot \text{h}$ ）：12.605（基準年度比▲43.1%、2015年度比▲4.8%）
- 進捗率（エネルギー消費原単位）
 - 2020年目標：352.1%、2030年目標：211.3%
- 目標達成に向けた今後の進捗率の見通し・課題

今年度の低炭素社会実行計画の参加状況等を踏まえ、省エネ型店舗への移行や店舗改装時における新設備の導入、社員における意識の高まり等の各種取組やその効果から、目標の達成に向けて進捗していると言える。しかし、店舗形態や事業運営上、店舗の天井高による照明の空調効率の悪化等、エネルギー消費の非効率を招いている要因もあると推測される。引き続き、エネルギー消費の増加、効率の悪い部分において、エネルギー利用の効率化に向けた更なる取組が必要であり、目標達成に向けて予断は許されない。計画参加（調査回答）企業によっては、業務部門における取組が既に実施済みとなっている場合が見られ、対策が行き渡っている企業も見られること、またカバー率の変動等により、目標達成に向けた今後の課題が生じる場合があり得る。

【要因分析】

CO_2 排出量について、調査年度により低炭素社会実行計画（自主行動計画）参加企業数の変動が見られ、前年度（2015年度）調査結果と比べて減少率は緩やかになってきているものの、引き続き減少が見られる。このことは、事業者の省エネ努力分や購入電力の変化等が大きく貢献しているものと推察される。このような事業者の取組成果により、排出量全体での削減につながったものと思われる。こうした背景としては、店舗等における照明対策（高効率照明への切替等）や、空調対策（冷暖房温度の適切な管理）等の効果が大きいものと推察される。



3. 2016年度の取組実績（2）

B A T、ベストプラクティスの導入推進状況

BAT・ベストプラクティス等	削減見込み量	導入状況・普及率等
—	—	—
—	—	—
—	—	—

【削減見込み量算定根拠】

—

4. 低炭素製品・サービス等による他部門での貢献

	低炭素製品・サービス等	削減実績（2016年度）	削減見込量（2020年度）	削減見込量（2030年度）
1	LEDシーリングライトの販売	—	従来品に比べ消費電力が電球で約1/10～1/6程度、シーリングライトで3/5～1/2程度（年度の特定なし）	—
2	LEDシーリングライトの販売	25W × 1,580台 × 8時間 × 365日 = 115,340,000Wh	30・32W使用の蛍光灯照明から替えることにより、25Wの省エネ（年度の特定なし）	—
3	LEDシーリングライトの販売	1台あたりのエネルギー削減量 31W × 23,400台 × 平均使用時間8.5H × 365日 = 2,250,553,500W	6畳タイプ蛍光灯シーリング（86W：実質消費電力=61W）に対して、LEDシーリング6畳タイプでは消費電力30Wのため、約50%の省エネ効果（年度の特定なし）	—
4	ソーラー式LEDセンサーライトの販売	100W × 1,300台 × 1時間 × 365日 = 47,450,000Wh	従来型のセンサーライトからの交換により100W削減（年度の特定なし）	—
5	丸型LEDランプの販売	全商品（4種類）の販売量の 蛍光灯消費電力は19,742Wとなり、LED型に全て代えると12,851Wの削減となる（約347円の削減につながる）	30W形+30W形を切り替えると電力は22.5Wになり、60%の省エネ（年度の特定なし）	—
6	丸型LEDランプの販売	33.5W × 234個 × 8時間 × 356日 = 22,889,880Wh	蛍光灯30W × 2本使用と比較して33.5Wの削減（年度の特定なし）	—
7	切花加工の内製化サービス	—	—	—

※本計画参加企業における一例として記載。

- 当該製品等の特徴、従来品等との差異、削減見込量の算定方法
 - 消費電力が大幅に低減され、かつ長寿命であること、工事不要で簡単に取り付け・交換が可能、省エネ性能の向上
 - 削減見込み量の算定根拠については、当該製品メーカーのカタログを基に算出

5. 海外での削減貢献

	海外での削減貢献	削減実績 (2016年度)	削減見込量 (2020年度)	削減見込量 (2030年度)
1	—	—	—	—
2	—	—	—	—
3	—	—	—	—

- 削減貢献の概要、削減見込量の算定方法

—

6. 革新的な技術開発・導入

	革新的技術・サービス	導入時期	削減見込量
1	—	—	—
2	—	—	—
3	—	—	—

- 概要、革新的技術・サービスとされる根拠、削減見込量の算定方法

—

7. その他取組（1）

- 業務部門での取組
 - － 目標：店舗における生産量（床面積×営業時間）当たりのエネルギー消費量（エネルギー消費原単位）を、目標年度（2020年度）において基準年度（2004年度）比15%の削減を目指す。
 - ・ 各社に対して店舗での取組を励行するために、本調査票のフィードバック（情報提供）等により、各社への意識向上や取組に向けた働きかけを行っている。
- 運輸部門での取組
 - － 目標：対象とする事業領域は、流通小売業（ホームセンター業）として、業務部門（店舗等）を対象としていることから、運輸部門における業界独自の目標策定は行っていない。しかし、各社では、環境面とコスト面を合わせた各種取組が行われている。
 - ・ 社用車における低燃費車の比率を高める（ハイブリッド車の導入）
 - ・ 配送車両の積載効率化、集約配送、配送車両の帰りの活用、店舗への配送指定時間を緩和

7. その他取組（2）

- 情報発信の取組

- － 業界団体

- 商品見本市（D I Y・H Cショウ）でのP R活動
（例）環境・資源商品の募集・展示
 - 会員各社向け環境資源に関する情報提供（環境関連情報等）
 - 協会H Pと各社H Pのリンクにより、各社の取組等について幅広く周知している
 - 業界内における流通システムの標準化の普及促進を進めることで、将来的には、商品の共同配送等を結び付けた物流の効率化を目指している
 - 低炭素社会実行計画の進捗状況を会員各社へフィードバック
 - 外部機関（行政機関等）からの依頼案件（環境対策）への対応等を通じた協力（連携）体制の構築
（例）次頁を参照

- － 個社

- 自社H Pに、各種環境取組（ライトダウンキャンペーン参加、環境推進体制、従業員の教育カリキュラムの実施、エネルギー使用量、CO2排出量、廃棄物排出量、省エネ・地球温暖化対策への投資額と経済効果等の環境活動データ）を公開
 - ISO14001認証取得（本社部門）により、月ごとに電力使用量、ガス使用量、廃棄物排出量の環境目標を設定し、実績を公開

8. 参考資料（1）

【家庭部門への取組例】

・「神奈川県事業（自分でできる省エネリフォーム『省エネDIY』による住宅の省エネ化を促進します！）への参加協力」（実施期間：2017年11月1日～12月31日）

本件は、神奈川県在住の県民各位を対象に、同県における家庭部門のCO2削減を目指す取り組み（既存住宅の省エネルギー化促進）を促進するための事業となります。本事業の実施に当たっては、神奈川県（環境農政局環境部環境計画課）から、当協会経由で協会加盟の小売会員（神奈川県内に店舗を有するホームセンター）に参加協力を募り、ホームセンター（7社）をはじめとする合計8社からの協力（連携）のもと、県民（消費者）を対象に実施されます。具体的には、神奈川県や協力企業各社が、県民（消費者）各位が自力で手軽に取り組める方法での省エネ（省エネDIY）をPRし、省エネ行動の実践につなげていく内容となっています。協力企業各社の店舗（一部店舗を除く）では、自分で簡単にできる省エネリフォーム（省エネDIY）を行うための省エネ商品を集約したコーナーを設置し、県民（消費者）へ省エネ行動を含めて普及啓発することにより、住宅の省エネルギー化につなげます。詳細は、神奈川県ホームページ（「神奈川県 住宅の省エネルギー化」で検索）よりご覧いただけます（URLは以下参照）。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f536517/p1170886.html>

8. 参考資料（2）

※「省エネDIY」リーフレット（神奈川県作成）

11月～12月 省エネグッズを集めた省エネDIYコーナーを設置します！

協力企業一覧（五十音順）













2017年11月から12月にかけて、左の協力企業の一部店舗で、省エネグッズをまとめた省エネDIYコーナーを設置しています。
ぜひこの機会に省エネグッズを使って家の断熱・省エネをお試しください！
実施店舗・コーナー設置期間など詳細は、神奈川県のホームページをご覧ください。

神奈川県ホームページ <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f536517/p1170886.html>

神奈川県 住宅の省エネルギー化 

身近に取り組める省エネ行動の例



大切な地球のために、いま私たちができること

家庭で電気やガスなどを使うと、二酸化炭素（CO₂）が出ます。私たちの出すCO₂の増加が地球温暖化の原因となっています。異常気象の発生や、病気の媒体となる生物の生息域の拡大など、私たちの生活にも影響が出てきています。日常生活の中で環境にやさしい行動を選びましょう。一人ひとりの小さな積み重ねがCO₂などの削減につながります。

電気冷蔵庫

- 熱いものは冷ましてからしまう
- 室温が低いときは、庫内の設定温度も控えめに設定する
- ものを詰め込みすぎないようにする

調理器具

- 圧力鍋などの省エネ調理器具を使う
- 鍋蓋の活用、余熱調理など、エコワッキングをやってみる

テレビ

- 見ないときは、こまめに電源を切る
- 画面を明るさや音量は、上げすぎず適切にする

ジャー炊飯器

- なるべく保温時間を短くする
- 保温が4時間[※]を超えると、電子レンジで温め直すほうがオトク
- ※ 製品によって異なります。

照明

- 照明のカバー等をこまめに掃除する
- 白熱電球をLED照明に交換する
- 部屋に合った明るさにする

ライフスタイル

- 早寝早起きをする
- 「3つの首（首、手首、足首）」を暖める

環境農政局環境部環境計画課
〒231-8588 横浜市中区日本大通1 電話 045-210-4053（直通）

神奈川県

手軽に省エネ！

省エネDIYで

家をエコ&快適に

**省エネルギー住宅は
お財布にも健康にも地球にも優しい**

家の中も夏は暑い・冬は寒いのは、仕方ない…
なかなか家のリフォームまでは手が出ない…
そんなときは、省エネグッズを使って、
自分で手軽に住宅の省エネを試してみませんか？
夏は太陽の熱を家に入れない。
冬は寒い空気を中に入れない。暖房の空気を外に逃がさない。
ちょっとした工夫で、住宅をさらに快適にしませんか。





8. 参考資料（3）

※「省エネDIY」リーフレット（神奈川県作成）

室内の暖かい空気を守って快適な部屋に



**窓に断熱シートを貼って
室内の暖かい空気を守る**

窓用の断熱シート・断熱フィルムなどで窓ガラスの断熱をすると、冬の冷たい空気が室内に伝わることを防ぎ、また、暖房で暖まった室内の熱が外へ逃げるのを防ぎ、暖房が効きやすい快適な部屋になります。

※窓ガラスの種類によって、使用できる製品が異なります。製品の取扱い書を参照して、適切な製品を選んでください。

※製品によって断熱性能が異なります。購入の際は、断熱性能を確認してください。

ひと工夫

- エアコンやファンヒーターのフィルターにホコリなどがたまっていると、暖房効率が下がります。こまめにお手入れしましょう。
- エアコンの室外機の吹出口がふさがれていると、暖房効率が下がります。吹出口の近くにはものを置かないようにしましょう。
- 暖かい空気は下から上へと移動します。エアコンの暖房の風向きは下向きにすると、部屋が効率よく暖まります。

**断熱・保温カーテンで
空気も見た目も暖かい部屋に**

カーテンで窓からの熱の出入りを防ぐことも大切です。

断熱性能の高いカーテンを選べば、暖房の効率がさらにアップします。保温効果のある厚い生地のカーテンのほか、レースタイプなど、種類も色々あります。機能や好みに合わせてカーテンを選んで、快適な部屋にしましょう。

**断熱マットで
床の冷たさを防ぐ**

電気カーペットの下に断熱マットを敷いたり、電気コタツを敷布団等と併用したりすることで、熱が床へ逃げることを防ぎ、効率よく温まります。

また、床にコルクマットなどを敷くと、床からの冷たい空気を防ぐことができます。



ひと工夫

- 電気カーペットの温度設定を低めに設定しましょう。「強」から「中」にした場合、年間で電気代約5,020円の節約になります。

※3畳用で、1日5時間使用した場合

お風呂でかしこく節水



節水シャワーヘッドで簡単にお湯を節約

1分間のシャワーのお湯は約12ℓ。15分シャワーを使うと、180ℓにもなります。使わないときはこまめにお湯を止めましょう。

シャワーヘッドを節水型に交換すると、簡単に効果的です。40%⁽¹⁾節水できるシャワーヘッドに交換した場合、1回で72ℓ、1年間では約26,280ℓもお湯の節約になります。(180ℓ×40%×365日=26,280ℓ) ※節水率は製品によって異なります。

ひと工夫

- お風呂は家族で間隔をあけずに入りましょう。2時間放置して4.5℃低下したお湯200ℓを追い焚きした場合、年間でガス代が約6,880円かかります。
- 家族や使用状況によって、お風呂とシャワーのどちらのほうが水とガスの無駄が無いかに比べて、省エネな使い方をしましょう。

照明をLEDに交換

夜が長くなる冬は、照明を使う時間も増えます。LED照明には色や照らす範囲など種類もいろいろあります。用途と好みに合わせて選んでください。白熱電球を電球形LEDランプに交換すると、年間で電気代約2,430円の節約になります。

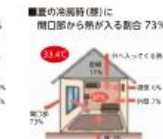
※54Wの白熱電球から9Wの電球形LEDランプに交換した場合



熱はどこから外に出る？ どこから部屋に入ってくる？

冬の暖房時、外に逃げる熱の半分以上が窓から出て行きます。また、夏の冷房時には、外から入る熱の約70%が窓から入ってきます。家の断熱性能を高めることで、部屋の冷暖房の効率がよくなります。





出典：一般社団法人 日本緑化センター 住宅環境調査部

さらに本格的に断熱するならリフォーム

本格的な断熱をする場合は、屋根や壁、床の断熱や、複層窓や樹脂製のサッシ等での開口部（窓・窓枠）の断熱が効果的です。

住宅を建てる・リフォームする・借りるときは、断熱性能にも注目してください。

（出典）節約額等の数値は資源エネルギー庁「省エネ性能カタログ」（2016年冬版、2017年夏版）より引用